

岡山県金融経済動向

1. 概況

県内景気は、全体として緩やかな回復を続けており、生産面での弱めの動きも徐々に解消しつつある。

すなわち、最終需要面をみると、設備投資が増加傾向にあり、輸出もアジア向けを中心に高水準にある。また、住宅投資も堅調に推移している。この間、個人消費は天候要因の影響等により一進一退ながら、耐久消費財を中心に底堅さがみられるなど、持ち直しの動きが窺われる。一方、公共投資は低調に推移している。

県内主要製造業の生産活動は、IT関連分野の生産調整に歯止めがかかりつつあることなどから、徐々に持ち直している。

雇用・所得環境については、改善の動きが続いている。

3月短観調査における県内企業の業況判断をみると、緩やかながら改善傾向が続いている。また、企業業績面でも16年度は3年連続の増益見込みにある。

2. 実体経済

(1) 個人消費

個人消費をみると、季節商品を中心とする非耐久消費財が天候要因の影響等から一進一退を続けているが、乗用車等の耐久消費財や旅行等のサービス関連で底堅い動きが続くなど、持ち直しの動きが窺われる。

すなわち、2月の販売動向をみると、乗用車販売は、普通車が前年の高い伸びの反動もあって前年を下回ったが、小型車、軽自動車は新車・モデルチェンジ車投入効果の継続から前年を上回り、全体では2か月振りに前年を上回った。また、家電販売は、大型・薄型テレビやDVDレコーダー等の販売好調に加えて、白物家電も堅調に推移していることから、6か月連続で前年を上回った。さらに、旅行取扱高は、国内旅行が前年を下回ったが、海外旅行が団体を中心に堅調に推移したことから前年を上回り、全体でも3か月連続で前年を上回った。この間、百貨店売上高は、春物等季節商品の出足が鈍かったものの、リニューアル効果等から身の回り品が堅調に推移したほか、一部先の閉店セールの効果も加わり、全体では2か月連続で前年を上回った。一方、スーパー売上高は、前年の閏年のプラス効果の反動に加え、春物等季節商品が低調に推移した

ことから、食料品、衣料品、生活用品とも売上が大幅に落ち込み、全体では12か月連続で前年を下回った。

なお、主要観光地への入り込みは、寒い日が続くなど天候に恵まれなかったこともあって、低調に推移している。

(2) 設備投資

県内企業の設備投資は増加している。

すなわち、3月短観調査における16年度の設備投資計画をみると、製造業(前年比 2.8%)は、合理化・効率化投資(化学、繊維)、新製品・高付加価値品の開発・生産対応投資(輸送用機械、石油、化学)などの前向きな投資が幅広くみられるようになっているが、鉄鋼等前年の大型投資の反動等から小幅ながら前年を下回る見込みにある。一方、非製造業(同+11.6%)は、新規出店・店舗リニューアル(飲食店・宿泊)、拠点整備(卸売・運輸)、新規事業参入(運輸)等を中心に大幅に前年を上回る見込みにある。この結果、全産業(同+2.1%)では、高い伸びを示した前年度を小幅ながら上回り、2年連続の増加で着地する見込み。

なお、17年度の投資計画についても、非製造業(前年比 8.5%)が前年を下回る計画となっているが、製造業(同+8.7%)が生産設備の能力増強、維持・更新投資(化学、石油等)を中心に前年を上回る計画にあることから、全産業(同+2.3%)では、3年連続の増加計画となっている。

(3) 住宅投資

2月の新設住宅着工戸数をみると、貸家が前月の高い伸びの反動から前年を下回ったが、持家が一次取得者を中心に3か月振りに前年を上回ったほか、マンションの新規着工が高い伸びを示したことから、全体としては2か月連続して前年を上回った(前年比:1月+11.8% 2月+2.7%)。

(4) 公共投資

2月の県内公共工事保証請負額をみると、「国」が前年を大幅に上回ったが、「県」、「市町村」、「公団等」が前年を大幅に下回ったことから、全体では2か月振りに前年を下回った(前年比:1月+25.1% 2月 13.8%)。

(5) 輸 出

2月の県内輸出(通関実績)をみると、欧州向けが自動車(完成車)を中心に低迷しているものの、ウェイトの高いアジア向けが鉄鋼、化学を中心に堅調に推移しているほか、北米向けも6か月振りに増加したことから、全体では2か月振りに前年を上回った(前年比:1月 1.3% 2月+2.7%)。

(6) 生産・出荷・在庫

1月の県内鉱工業生産指数(直近計数)は、一般機械、化学が上昇したものの、電気機械が大幅な前年割れで推移しているほか、輸送用機械も前年比低下が続いていることなどから、6か月連続で前年を下回った(前年比:16/12月 2.2% 17/1月 2.6%)。

なお、季調済前月比では、電気機械、輸送用機械の持ち直しにより、4か月連続で前月比上昇するなど、生産は徐々に回復しつつある。

この間、在庫指数は10か月振りに前年比上昇した(前年比:16/12月 3.8% 17/1月 +2.9%)。

県内主要製造業の最近の生産動向(10業種、付表参照)をみると、堅調な国内外需要を背景に鉄鋼、石油精製、石油化学では、高操業を続けている。また、造船、工作機械でも豊富な受注残を抱え、高水準の生産を継続している。一方、電気機械では、IT関連分野での生産調整等が続いているが、一部先では受注に動意がみられ始めている。また、自動車も、国内向けは持ち直しの動きがみられるが、輸出向けが低調なことから、なお低水準の生産が続いている。このほか、農機具、耐火物、繊維では、需要低迷や海外製品への需要シフト等から、引き続き低水準の生産を余儀なくされている。

こうした中、造船、工作機械のうち繁忙度が強い一部の先では、残業等による生産対応が続いている。

(7) 雇用・所得

雇用面をみると、2月の有効求人倍率は引き続き高水準で推移している(1月 1.11倍 2月 1.12倍)ほか、雇用保険受給者や解雇者数の減少傾向が続いている。また、1月の常用労働者数は小幅ながら前年を下回った(前年比:16/12月 0.2% 17/1月 0.2%)ものの、均してみればほぼ前年並みの水準にある。このように、県内の雇用関連指標の多くは引き続き改善傾向にある。

所得面については、一人当たり現金給与総額や雇用者所得は、概ね前年を上回って推移しており、達観してみれば持ち直しの動きが続いている。

(8) 物 価

2月の県内都市部平均消費者物価指数(生鮮食品を除くベース)は、光熱・水道、交通・通信(ガソリン)等が前年比上昇したものの、被服及び履物が前年比マイナスに転化したほか、食料、住居、教養娯楽等が前年比低下したことから、全体では3か月連続して前年比マイナスとなった(前年比:1月 0.1% 2月 0.5%)。

(9) 企業倒産

2月の県内企業倒産（東京商工リサーチ調べ、負債総額10百万円以上）をみると、倒産件数（10件＜前年7件＞）は前年を上回ったが、引き続き低水準で推移している。また、負債総額（23億円＜前年101億円＞）も前年の大口倒産の反動から前年を大幅に下回るなど、落ち着いた動きが続いている。

3 . 金 融

(1) 実質預金

2月の県内実質預金をみると、法人預金が一部大口先の預金取崩し等から伸び悩んだものの、ウェイトの高い個人預金が堅調に推移したほか、公金預金も前年を上回ったことから、実質預金全体では安定的な伸びが続いている（月中平残前年比：1月+2.0% 2月+2.0%）。

(2) 貸 出

2月の県内貸出をみると、個人向け、地公体向けとも前年を上回って推移した一方、ウェイトの高い一般企業向けが運転資金を中心に前年比減少が続いていることから、貸出全体では低めの伸びが続いている（月中平残前年比：1月+0.9% 2月+1.0%）。

(3) 貸出約定平均金利

2月の新規貸出約定平均金利（総合ベース）は、前月比低下した。一方、ストック金利（同）は、6か月連続して低下した。

以 上

内容についてのご照会は下記までお願いします。

〒 700-8707

岡山市丸の内1-6-1 日本銀行岡山支店 総務課

TEL 086-227-5111（代表）

FAX 086-227-6350

ホームページアドレス <http://www3.boj.or.jp/okayama/>

主要製造業の生産動向

業 種	足 も と の 動 向
自 動 車	<p>国内向けに持ち直しの動きがみられるが、輸出が低調に推移しており、全体として低水準の生産が続いている。</p> <p>すなわち、国内向け生産は、販売が回復に向いつつあり、低水準ながら徐々に持ち直している。一方、ウェイトの高い輸出向け生産は、完成車が欧州向けの販売持ち直しや北米向けの在庫調整の進展から幾分持ち直しているが、KDは東南アジア向けが減少傾向にあるほか、中国向けが大幅に落ち込んでおり、全体として生産は低調に推移している。</p>
造 船	<p>全体としては、豊富な受注残を背景に高操業が続いている。</p> <p>すなわち、大手先の造船部門では、外航船を中心とする豊富な受注残を抱え、高操業が続いている。また、非造船部門も、中・小型船舶向けディーゼルエンジンに加え、産業用機械の受注も堅調なことから、高操業が続いている。</p> <p>この間、生産現場では一部設備の増設や残業による生産対応を続けている。</p>
石油精製	<p>全体としては、高操業を続けている。</p> <p>製品別にみると、ガソリン、重油は、国内需要が堅調に推移していることから高めの生産を続けている。また、ナフサも、石化メーカー向け需要が堅調であることから、高水準の生産を維持している。灯油は、暖房需要の減少に対応して徐々に生産水準を引き下げている。一方、軽油は、灯油への生産シフト終了から、足もとの生産は持ち直しつつある。</p>
石油化学	<p>全体としては高めの生産を続けている。</p> <p>すなわち、基礎原料のエチレンは、末端樹脂需要が堅調に推移していることから、高水準の生産を続けている。</p> <p>製品別にみると、ポリエチレンは、市況の弱含みもあって幾分生産水準を引き下げているが、プラスチックメーカー向けや自動車部品・家電製品向けを中心に、需要が堅調に推移しており、なお高水準の生産が続いている。また、ポリスチレンも、旺盛な国内外需要を背景にフル操業にある。一方、塩ビ樹脂は、主力の建設関連向け需要は低迷しているものの、堅調な海外需要から市況が改善傾向にあることから、幾分持ち直しの動きがみられる。</p>
鉄 鋼	<p>粗鋼生産量は、堅調な国内外需要を背景に高水準にある。</p> <p>製品別にみると、薄板類は、国内自動車メーカー向けが堅調なほか、中国、韓国向けを中心とする輸出も、旺盛な現地需要を背景に高水準の生産を続けている。また厚板類も、造船メーカー向けを中心に需要が堅調に推移しており、高めの生産が続いている。一方、形鋼類は、国内市況が軟調に推移しており、持ち直しの動きに一服感がみられる。棒鋼類は、引き続き低調な生産を続けている。</p>
耐 火 物	<p>全体としては、低水準の生産が続いているが、大手先を中心に、幾分持ち直している。</p> <p>中小先を中心に多くの先では、安価輸入品との競合や品質向上に伴う耐用年数の長期化などから受注は低調に推移しており、低水準の生産を継続している。一方、大手先では、主力取引先である鉄鋼メーカー等からの受注が堅調なことから、生産は幾分持ち直している。</p>
電 気 機 械	<p>全体としては、IT関連の生産調整等が続く中で、なお弱めの動きが続いている。</p> <p>製品別にみると、電子部品、スイッチは、携帯電話向けなど生産調整が続いているが、足もとの受注には動意がみられ始めている先もある。この間、各種制御機器は、国内外の需要が堅調なことから、高めの生産を続けている。また、デジタルビデオカメラも、新製品投入に伴い持ち直しており、生産は高めの水準に戻りつつある。</p>
織 維	<p>全体としては、低水準の生産が続いている。</p> <p>製品別にみると、合繊維物は、高機能製品向けなどの需要拡大から、足もとの生産は持ち直している。また、学生服も、需要期に向けた受注獲得策等の奏効などから、生産の持ち直しが続いている。一方、綿織物は、末端需要が低調に推移しているほか、安価輸入製品への需要シフトもあって、低水準の生産を余儀なくされている。また、ジーンズ（需要不振や安価輸入製品との競合）、作業服（需要不振や海外生産シフト）も引き続き低調な生産を続けている。</p>
工 作 機 械	<p>全体としては、高操業が続いている。</p> <p>すなわち、NC旋盤は、国内外の自動車関連メーカー向けを中心に需要が堅調なことから、高水準の受注残を抱え、高操業が続いている。また、MC（マシニングセンター）も、自動車関連向け、一般機械メーカー向けを中心とする国内需要が好調なほか、アジア向けを中心に輸出も堅調に推移しており、高操業が続いている。</p> <p>この間、生産現場では残業や休日出勤による生産対応を続けている。</p>
農 機 具	<p>全体としては、低水準の生産が続いている。</p> <p>製品別にみると、コンバインは、末端需要の低迷から、依然として低水準の生産が続いている。携帯用刈払機は、欧州向けを中心とした輸出が堅調に推移しており、生産量は若干持ち直しつつあるが、国内需要の低迷から、全体としては、なお低水準の生産が続いている。</p>